

胎児の感情神経に影響

妊婦が魚を食べ体内に

摂取することで胎児への影響が懸念される有機水銀が、胎児の脳神経のうち感情や行動をつかさどるセロトニン神経に発達異常を起す可能性のあることが、厚生労働省研究班(班長・成田正明三重大大学院医学系研究科教授)の研究で分かった。有機水銀による胎児内の反応メカニズムを解明したのは初めて。論文は米神経科学誌「ニューロサイエンス」レーダー電子

三重大学教授ら解明

妊婦の有機水銀摂取

版」に掲載された。

有機水銀は、自然界の魚介類に微量含まれ、食事により体内へ摂取される。大人に害はないが、厚生労働省は胎児への悪影響を考慮し妊婦に対し、食物連鎖をへて水銀濃度が高くなった一部大型魚を食べ過ぎないように注意を促している。

研究班の江藤みちる同研究科助教らは、人間でいえば妊娠二カ月のラットに高濃度の有機水銀を注射し、六日後の胎児で発育の違いを調べた。有機水銀を与えたラットの

胎児は脳幹で発達中のセ

ロトニン神経の量が二倍になり、本来は神経がな

い場所にも見つかった。セロトニン神経は大脳全体に指示を与え、感覚や行動、精神までコントロール。この神経の働きの不具合が、うつ病などの精神疾患と関連する

とも分かっている。

実験では魚食で摂取する有機水銀をはるかにしのぐ量を投与しており、実際には魚を食べた程度では影響はない。成田教授は「有機水銀がセロトニン神経に異常を起させば、生後の認知や行動に影響が出る恐れがあり、有機水銀の危険性が一層明らかになった」と指摘している。

意義深い基礎資料

児への影響やどの神経に異常を及ぼすかなどは不明な点が多く、今回の動物実験での証明は意義深い。衛生行政の観点からも、有機水銀の摂取をめぐる基礎データになるはずだ。

日本周産期新生児医学会理事を務める名古屋市長大の戸荻創(はじめ)

学長の話。有機水銀が中枢神経に影響を及ぼすことは知られているが、胎